(六) ⑲サクラのめは，茶色のうろこのような皮につつまれています。⑳冬の強い風でかわきすぎたり，つめたい水がしみこんでこおったりするのをふせいでいるのでしょう。㉑トチノキのめも，うろこのような皮につつまれています。㉒そのうろこには，やにがついていて，水をはじくようになっています。㉓ハクモクレンやコブシのめは，あたたかそうな毛でおおわれています。

(七) ㉔ムラサキシキブのめは，皮や毛につつまれていません。㉕はだかのままで，とても寒そうに見えます。㉖ところが，はだかのままでも，めがこおらないようになっています。㉗めの中の水分が少なくなっているのです。㉘しかも，水をこおりにくくするようなものが，めの中にとけこんでいるのです。

(八) ㉙マツやツバキは，冬の間も葉をつけています。㉚これらの木の葉は，かたくてあつく，葉の表面にはつやがあって，寒さをふせぐのに都合よくできています。㉛また，ビワの葉のように，葉のうらがわ一面に毛の生えているものもあります。

(九) ㉜いつも葉をつけている木にも，冬の間少しずつ育つめがあります。㉝ツバキには，サクラと同じように，葉やえだになるめと花になるめがあります。㉞春から夏にかけて，葉やえだになるめがじゅうぶんに育つと古い葉が落ちます。㉟花になるめは，春が近づくと，いっせいにのびて，やがて美しい花をさかせます。

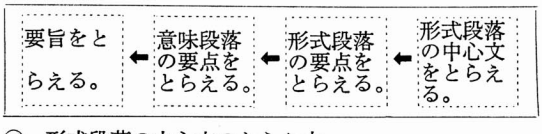
(十) ㊱このように，冬になると葉が落ちる木も，いつも葉をつけている木も，冬の間に，新しい葉を育てたり，花をさかせるじゅんびをしたりしているのです。（加藤嘉男の文章による）　　東書　3年下

① 文章の研究

ア 文章構造図を書く

教材研究の第一段階は，教材をよく読んで，文章構造をは握することである。その際，子どもに文章構造をとらえさせる手順に従い，しかも，ただ頭の中でまとめるのではなく，実際に構造図を書いてみることである。

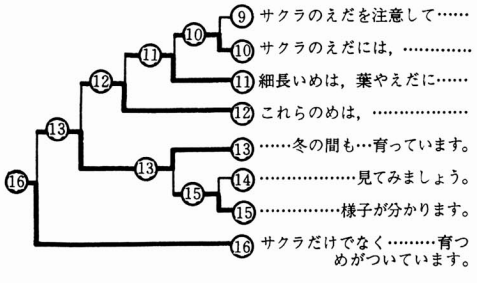
〔文章構造をは握する手順〕



㋐ 形式段落の中心文のとらえ方

○文と文の連接関係を調べ中心文をとりだす。

例　形式段落(四)の中心文のとらえ方



上記のような方法で調べていくと中心文は⑯であることがわかる。次に，具体的に調べてみよう。

⑨から⑮までの中で，中心文をさぐる際のキーワードは，⑫の冒頭の「これらのめ」である。「これらのめ」というのは，⑩⑪でいっているサクラのえだについているめをさしている。したがって，⑫を取り上げ，⑩⑪は⑫に含める。また「これらのめ」というのは，⑬の主語であるが，題名である「木の冬ごし」に関する内容は⑬に述べられているので，⑬を取り上げ⑫は⑬に含める。したがって，⑨から⑮までの中心文は⑬であることがわかる。

ところで，⑬と⑯を比べた場合はどうなるだろうか。⑯が中心文である。それは，⑬がサクラの木のめについてだけ述べているのに対し，⑯は，冬に葉の落ちるすべての木のめについて述べているからである。

㋑ 形式段落の要点のとらえ方

○中心文をとらえる。（㋐の中心文のとらえ方参照）

○一つの形式段落の中に中心文が二つ以上ある場合

このような場合は，二つ，あるいは三つの中心文をまとめたり，別の言葉におきかえたりして，一つの文にする。文章構造図の(六)，(七)を参照。

○中心文のない場合は，だいじな言葉を取りだして結んでいく。

例　①……寒い冬……。

②……の草は，かれてしまっています。

③……のような草だけが，葉を広げています。

寒い冬になると，かれてしまう草とかれないで葉を広げている草がある。

㋒ 意味段落のとらえ方

○形式段落の要点相互の関係を調べ意味段落にまとめる。（文章構造図の意味段落の要点の項を参照）

・第一段階　(一)と(二)の比較

(一)は冬の草の様子についてのべ，(二)は冬の木々の葉の様子について述べている。この文章の題名は，「木の冬ごし」であるから，木の葉について述べている(二)を取り上げ，(一)は(二)に含める。

・第二段階　(三)と(四)の比較

(三)では，「……かれてしまったのでしょうか」と問題を投げかけているのに対し，(四)では，その問題を解決するために観察したことを述べていることから(四)を取り上げ，(三)は(四)に含める。